第 2017-06 号

恵みと真理のニュース

2017 年 2 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

脳性麻痺の障害を勝ってピアニストで活発に活動して 福音を伝えるように導いてくださった神様に感謝を捧げます

1981年5月　ある家庭で双子の男の子が生まれました。親は息に二人の男を得たと限り嬉しくて、他の家族もみんな嬉しかったです。しかし、この喜びは長くなかったです。百日が過ぎてその喜びが悩みで変わりました。なぜなら5分遅く生まれた私に脳性麻痺の障害があることを知ったからです。親は私を見て病院を様々なところを探しました。そうして、医術では仕方がないのを知ってから親は何回も巫女を呼んで祭祀を行いました。そうする間、私の体に良い薬ならたくさん飲めさせて病弱な体に針を打ってもらうことも我慢しました。

時間が経って5歳になりました。当時、豊かではない経済状況で親は体も悪くて多く苦労しました。父が働いて稼いだお金の半分以上が私をはじめ家族の薬代で使いました。それで母も外で働かなければならなかったです。母はミシンをする仕事をしましたが、家の近くにある執事の家で働きました。その時に母が独実な信仰でイエス様を仕える執事の家で働いたのは私と家族のため神様の恵みであり摂理でした。執事の家族が神様を信じ委ねて幸せに生きる姿を見て母がとてもうらやましがって、母にイエス様を信じたい心が出来ました。そして、母と私の兄弟達は執事をついて信仰生活をしました。 5歳だった私は足と腕が曲がっていて自分の力では歩くことが出来ない状況だったし、唾をのむことが出来なくて、口の中で唾が出てだらだら流ればかりでした。歩くことが出来なくて、お尻で ずるずると引きずって歩いていつも服にはほこりだらでした。その私が執事の家に来てもいつも嫌な顔をしなくて招いて私と母を愛で見守ってくださいました。母と私と兄は神様に礼拝して信仰が成長して温かい神様の愛を感じてうれしくて感謝するこころで日々を過ごしました。

信仰生活を始めた同時に母は私のために切に祈りをする一方で毎日のように運動させました。母から助けてもらって化粧台を取って座ったり起きたり、壁によりかかって背中を開いたりまた座ったりして運動をしました。すると、固くなった体が少しずつ柔らかくなり2年後7歳になった時には自ら歩くことが出来ました。神様の奇跡です。その過程があまりにも大変で母と私に神様に題する信仰がなかったら道中に諦めたはずです。

中学校に入るぐらいからピアノを習い始めました。特殊学校を通うべきでしたが、当時住んでいたデジョンでは行く学校がなくって学校を探すためアンサンに引っ越しました。アンサンに来て親が韓国食堂を運営しましたが、食堂の隣の建物にピアノ学院がありました。学校授業が終わって遊んでいる時に毎日学院でピアノの音が聞こえました。特に夜になると院長がショパンの曲を演奏しましたが、そのピアノ演奏音に次第に魅了されました。私はあまりにもピアノを弾きたくてピアノ学院に行きました。院長はびっくりしてずっと私を見て"ここになぜ来たのか“と聞きました。ピアノが習いたくて来ました。と答えました。切ない心が通じて院長は私を受け入れました。両指が固くなって初めは鍵盤をこぶしで弾きました。指を開くため鉛筆で 指の関節を固定させた後、鍵盤を弾く練習を繰り返しました。

とても苦しくても諦めませんでした。ピアノを演奏したい心が切なかったからです。そして、私はイエス様を信じました。諦めて努力すると確かにイエス様が助けてくださり夢を成し遂げてくださると思い確信しました。ピアノを習って3年ぶりに指を開いて演奏することが出来ました。そのようにピアノと縁を結んで神様の助けによって脳性麻痺を患っているが、結構名前が知られたピアニストになりました。

大学で社会福祉学を習ってから私たちの教団の神学に入学してもう卒業の前の2006年冬でした。その時韓国でも UCC（使用者が直接に商業的な目的がなくてインターネットに載せること）が入ってインターネットで私がピアノを弾く姿を映像を撮ってインターネットに載せました。わたしのような障害を持っている子供たちと青少年達に力と勇気を下さるためです。当時でも私のような演奏者が多くいて一般の人々には珍しい事でした。そんな状況で私が初めて障害人の演奏者として世と話し合って皆に知られたのです。

すると様々な新聞と放送局で取材とインタビューの要求が殺到しました。急に UCCスターになって以後、脳性麻痺のピアニストで活動になりました。所属者が出来て多様な文化活動を通して疎外された人々を助ける文化外教者の団体の"社団法人のビュティプルのマインドに属して活動するようになりました。その間、この団体の一員で世界50回を回って2百以上の公演して、国内でも数えられないほど多く公演をしました。

ピアノ演奏を通して神様に栄光を捧げて全世界にイエスキリストの福音を伝える喜びが溢れます。去年は神様の恵みで12曲を作曲して演奏したアルバム"愛と思い”を発表しました。教会で青年奉仕宣教会の手話教室と情報通信宣教会で奉仕して、今は北朝鮮宣教会で熱心に仕えています。直接切に車を運転して通い長時間、ピアノを演奏するように神様は健康をくださいました。最近は当会長の牧師が主日の午後1時礼拝でピアノ演奏する機会を与えてくださってうれしくて感謝しました。今は脳性麻痺を患っているのも神様の恵みだと思うほど幸せな生活を送っています。神様の大きい恵みと愛に感謝を捧げ全ての栄光を捧げます。

" わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です。” （ フィリピ信徒への手紙4：13）
わたしを愛する人をわたしも愛し／わたしを捜し求める人はわたしを見いだす。（箴言８：17）ハレルヤ！

［信仰コラム］

聖霊の実

"しかし、御霊の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制であって..."
（ガラテヤ人への手紙　５：22～26）

聖霊様は私達に聖徒らしい品性を持つようにしてくださいます。聖霊様によって持つようになる気性をさして聖霊の実だと呼びます。イエスキリストの中にいる者には聖霊様によって実るようになる実があります。
第一は、愛です。聖霊の実である愛はイエスキリストによる神様の愛を受け入れた者の気性に現れる実です。その愛は神様を愛することと隣の人を愛することという二つの方面で現れます。礼拝するのを楽しんで困難と犠牲を堪えて福音伝播に励むのは神様を愛することと隣の人を愛することによるのです。
第二は、喜びです。パウルとシラスは罪もないのにピリピの監獄に閉じ込められても真夜中に起きて賛美しました。聖徒は当面するいかなる事でもキリストイエスの中で解釈して意味を探したら全てのことが主の中で楽しむことができる素材であることを悟り、楽しむようになります。その楽しみが聖霊の実であります。
第三は、平和です。人が経験する最も大切な平和は主イエスキリストによって神様と共に享受する平和です。イエスキリストを信じて罪の許しを得た聖徒が神様と共に享受する平和は聖霊の実であります。聖徒が全ての心配を主に任せることで得る平和も聖霊の実です。
第四は、寛容です。神様のお言葉を信じて従う結果を見るために必ず必要なことが寛容です。福音を述べ伝える人、主に仕えて奉仕する人、苦難を受けた人は忍耐しなければなりません。寛容は神様を徹底に信頼することから始まります。神様に頼って持つようになる寛容は聖霊の実です。
第五は、慈愛です。慈愛に該当する聖書原語は ' 寛容、和やか ' 等を意味します。聖霊様は私達が神様の方に立って考えて判断するように手伝ってくださいます。そうして慈愛を施すことができるようにしてくださいます。このような慈愛は聖霊の実です。
第六は、善意です。善意だと翻訳された原語と慈愛だと翻訳された原語は全て親切を意味する言葉であるが特に、善いことであり、神様が喜ばれ、完全な思いに従って判断し譴責（けんせき）して正すことまで親切を施すのが善意です。このような善意は聖霊の実です。
第七は、忠実です。聖霊の実である忠実は神様を喜ばせようとする心から始まります。イエス様のタラント比喩がこれを良く説明してくれます。主を喜ばせようとする心から任された事を信実に行う忠実は聖霊の実です。
第八は、柔和です。イエス様の弟子であるペテロとヤコブ、ヨハネの性格を見てみると彼らにはイエス様の意中を考えずに速断したり自分の主張を押し立てる共通的な欠点がありました。しかし、彼らが聖霊充満を受けた後には気性が大いに変化されて主の思いに黙々と従いながら公開的な責めも甘んじました。神様の思いとお言葉の権威の下で完全に従う信仰による柔和は聖霊の実です。
第九は、自制です。全てのことにおいて程を守るのが自制です。
聖徒は無理強いや貪欲で行わないため常に神様の導きと許しを伺いながら行動すべきです。神様の導きと許しを伺ってこれに順応することによる自制は聖霊の実です。
キリストの外でも修養と人格陶冶で愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制の品性を涵養することができます。しかし、それは聖霊の実ではありません。聖霊の実はキリストと神様のお言葉に関連され、聖霊様が関与なさい主導なさって私達の品性に現れるのです。ただ、聖徒は古き人の本性である情けと欲心を十字架に釘を刺した者になった事実を常に認識すべきです。そして、空しい光栄を求めてお互いにくやしくて残念になることや嫉妬することがないようにしなければなりません。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

イエス様が尋ねる三種類の質問

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

今日は聖子の神様であるイエス様の質問とその質問に対する正しい返事に関してよく見ます。人は例外なしにイエス様の質問に答をしなければなりません。

第一は、“あなたは私を誰だと言うのか?” という質問です。

“ あなたがたは私を誰だと言うのか? ” これはイエス様が彼の弟子になさった質問です。しかしこの質問は弟子に限定されたのではないです。 すべての人に返事を要求する質問です。だから各人には “あなたがたはわたしをだれと言うのか?” という質問です。 この質問に関して人々を三つの部類で区分することができます 第一部類は、こんな質問があるのが分からない人々です。 二番目の部類は、この質問に対して否定的な反応をするとか誤れた答をする人々です。 三番目の部類は、聖書に啓示された正し知識を持って信仰で答える人々です。第一と二番目の部類の人々は救いを得ることができないです。 神様の選ばれることができなかった人々です。 被造物でまた神様の前に罪人である人間としてはこの事に対して論難する資格がないです。
イエス様の質問に対してペテロが答えました。“主はキリストである あなたこそ、生ける神の子キリストです。” ペテロの返事は簡単であるが完全な信仰告白です。 ‘主’という言葉は 2 人称代名詞である ‘あなた’を指称します。 ペテロの告白で ‘あなた’という代名詞は強調された表現です。 他の人これではなくて ‘ただあなただけが’という意味を持ちます。 ‘キリスト’という言葉はヘブル語ではメシヤなのに ‘油を注ぎ受けた者’という意味です。 これは神様が委任した事のために神様の送られを受けた者を示します。 旧約時代に王、祭司、予言者に油を注ぎました。 イエス様は大祭司長、王、予言者の役目を皆を遂行するメシヤです。 ‘生きていらっしゃった神様の息子’という言葉はイエス様が神聖を持ったことを意味します。 イエス様は神様の父がこの世の中に行かせた神様のイエスキリストです。
イエス様が親しくおっしゃるのを “すべての事は父からわたしに任せられています。そして、子を知る者は父のほかにはなく、父を知る者は、子と、父をあらわそうとして子が選んだ者とのほかに、だれもありません。”(マタイによる福音書 11:27) しました。 これは神様の息子だけができるお話です。 だからイエス様のようなまた他のこれがありえないです。 イエス様は唯一の救い主です。 “イエスは彼に言われた、「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。”(ヨハネによる福音書 14:6)と言うお話はやはりイエス様だけがなさることができるお話です。

イエスキリストがペテロに向けて “イエスは彼にむかって言われた、「バルヨナ・シモン、あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である。”(マタイによる福音書 16:17) しました。 そして “そこで、わたしもあなたに言う。あなたはペテロである。そして、わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。黄泉の力もそれに打ち勝つことはない。”(マタイによる福音書 16:18) しました。 イエス様を向けて “神様はキリストで生きていらっしゃった神様の息子です。” という告白をする人は永遠で真の福を受けた者です。 このような知識と信仰は神様の父がくださるのです。そしてこの信仰告白の上に建てた教会を黄泉の権勢が勝つことができないです。 こんな信仰告白をする信者をサタンの勢力が勝つことができないです。

二番目は、“私が充分にこの事をすることを信じるのか?” という質問です。

イエス様が道にいらっしゃる時に二人の盲人が付いて来ながら “タビテの子孫よ私たちを可愛想に思ってください。” と大声を出しました。 イエス様が家に入ったら彼らが付いて入って来ました。 イエスキリストが彼らに “私が充分にこの事をすることを信じるのか?” と質問しました。 彼らは “はい、神様、私たちが信じます。” と答えました。 イエス様が彼らの目を触って “あなたがたの信仰のどおりなりなさい。” なさったら彼らの目が明るくなりました。 イエス様は彼に出て来る人の外見を見なかったです。 心にある信仰を見ました。 その信仰を見て切実な祈祷と願いに回答なさいました。 イエス様は今も私たちに向けて “私が充分にこの事をすることを信じるのか?” と尋ねます。 皆さんはこんなに答えてください。 “私は神様が私と一緒になさって手伝ってくれるこの事をすることを信じます。” “私は神様が私を治療するこの事を信じます。” “私は神様が私が経験するすべてのものが合力して良きを成すこの事を信じます。”

三番目は、“あなたが私を愛するのか?” という質問です。

ヨハネのよる福音書の最後の章にはイエス様が “あなたが私を愛するのか?” とおっしゃる質問があります。 イエス様は自分が予告したとおり十字架に釘付けられてまた葬られてから三日ぶりに復活しました。 イエス様の弟子がエルサレムからガリリに居所を移しました。 ペテロ、トマス、ナダナヘル、ヤコボ、ヨハネそして他の二人の弟子が船に乗って漁夫に出ました。 彼らは夜通し網を投げたがさかなを一匹も取ることができなかったです。 日が明るくなる頃に復活したイエス様が海辺へいらっしゃいました。 弟子はこの方がイエス様であるとは分からなかったです。 イエス様が “網を船の右の方に投げなさい。そんなにすればさかなが取るでしょう。”とおっしゃると弟子が船の右の方に網を投げたらさかながたくさん取りました。 その瞬間ヨハネがペテロに “主である。” と言いました。 ペテロが脱いでいる途中上着をかけた後海に飛びおりて泳いで行きました。 他の弟子は船をかき混ぜて陸地に出ました。
彼らがイエス様がいらっしゃる所で行って見たらその所に炭火が立てられていたし、その上に魚が置かれたしパンもありました。 イエス様が彼らを向けて “来て朝ご飯を食べなさい。” とおっしゃいました。

食事が終わるとイエス様がペテロに “ヨハネの息子シモンよ、あなたがこの人々より私をもっと愛するのか?” と質問しました。 シモンペテロが答えました。 “主よ、そうです。 私が神様を愛するのを神様が分かりました。” するとイエス様が “私の幼い羊を飼いなさい。” こうおっしゃいました。 イエス様がまた質問しました。 “ヨハネの子 シモンよ、あなたが私を愛するのか?” “主よ、そうです。私が神様を愛するのを神様が分かりました。” とペテロが答えました。 するとイエス様が “私の羊を飼いなさい。” このおっしゃいました。 イエス様が三番目に質問しました。 “ヨハネの子 シモンよ、あなたが私を愛するのか?” ペテロが懸念になって言いました。 “神様、神様はすべてのものが分かりました。私が神様を愛するのを神様が分かりました。” するとイエス様が “私の羊を飼いなさい。” としました。
イエス様を本当に愛する聖徒にはその証拠がよります。
第一、自分の意志がか弱くて神様の心を痛くする事があってもイエス様を離れ去らないです。そして悔い改めます。 ペテロは自分がイエス様が審問を受ける現場で恐ろしいでイエス様が分からないと三度も否認したがイエス様を愛する彼の心をイエス様が分かると信じました。ペテロの告白をきいたイエス様はペテロに神様の羊の飼う重大な任務を委任するというお話を三度おっしゃいました。 イエス様はイエス様に出て来る人、悔い改める人に罪を赦しをくださってまた失敗を受け入れます。 そして新しい出発点に立てます。
第二、神様の御旨と要求を黙黙と収容してよります。 イエス様がペテロに “よくよくあなたに言っておく。あなたが若かった時には、自分で帯をしめて、思いのままに歩きまわっていた。しかし年をとってからは、自分の手をのばすことになろう。そして、ほかの人があなたに帯を結びつけ、行きたくない所へ連れて行くであろう」。”(ヨハネによる福音書 21:18)とおっしゃいました。 ペテロが前のようであったら “主よ、あまりそうしないでください。この事が決して私に成り立ちませんだろう。” と言ったはずであるがこれからはペテロがイエス様の御旨を収容しました。
第三、神様だけ眺めてよります。 イエス様に付いたペテロがヨハネが付いて来ることを見てイエス様に尋ねるのを “神様、この人はどうなりますか?” としました。 イエス様がおっしゃるのを “私が来る時まで彼が生きているのを私が願うとしてもそれがあなたに何の関係なのか? あなたは私に付きなさい。” としました。 イエス様の返事は二つの意味を持ったお話です。 その一つは、他人と不必要な比較をするなと言うお話です。 他の一つは、いつも神様と自分との関係を思いなさいというお話です。 私たちは他人との比較から来る成功と成就感を得ようと思わなくて神様を向けたまじめな生から来る成功と成就感を得るようにしなければなりません。 人々は競争で一等を占めようと思います。 しかし善良で忠誠されるように行って神様に認められるように願う人は等数を付けるによってストレスを受けないです。上手であったと誉める神様の認定を受けようとする目標を持って力をつくす人が賢く暮す人です。

“あなたは私を誰だと言うのか? 私が充分にこの事をすることを信じるのか? あなたが私を愛するのか?” というイエス様の三種類の質問に対して皆さんはいつも上でよく見たとおり専ら答えるように願いします。